

# 親子企業間における資源再配分と知財活動の特性

：知識活用および技術多様化に関する実証分析\*

中央大学商学部 羽田尚子†

April 2026

本研究は、科学技術研究調査と IIP パテントデータベースを接合した企業パネルデータを用い、親子企業間で研究資源（研究者および研究開発費）の移動が観察される企業とそうでない企業との間で、知財活動の特性の違いを検証した。分析の結果、以下の三点が明らかとなった。第一に、特許出願数や研究開発資源当たりの特許生産性といった量的・効率的側面において、明確な優位性は認められなかった。第二に、研究者の移動が行われている企業では、特許の前方引用および後方引用の相対的水準が高く、引用頻度の高い特許への選択的な参照を伴う知識活用パターンがみられた。第三に、研究開発費の移動を伴う企業では、特許ポートフォリオの多様性が統計的に有意かつ頑健に高いことが示された。以上の結果は、親子企業間における資源移動を通じた資源再配分がイノベーションの量や効率を直接高めるといよりも、移動される資源の性質に応じて、企業の知識活用や技術多様化の構造に異なる影響を及ぼすことを示唆している

JEL classifications: O32, G32, L22, O34

Keywords: business groups, resource reallocation, researcher mobility, patent citations, technological diversity

---

\* 本研究は、文部科学省科学技術学術政策研究所（NISTEP）における研究プロジェクト成果の一部であり、本稿で用いた個票データは当プロジェクトの一環で利用を許可されている。本研究は、日本学術振興会・科学研究費補助金（基盤研究(C)25K05270）の助成を受けている。本研究における見解は著者個人のものであり、サポートいただいた組織のものではない。

† 192-0039 東京都八王子市東中野 742-1 中央大学商学部  
TEL 042-674-3562 Email: shaneda.05w@g.chuo-u.ac.jp